

SPANCRETE CORPORATION

Investors' Guide IR 2011

会社情報



(株) プロネクス戸田工場（外壁）

株式会社 スパンクリートコーポレーション

本 社

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-3

Tel: 03-5689-6311 Fax: 03-5689-6321

www.spancretecorp.com

JASDAQ 〈 JASDAQスタンダード・コード 5277 〉

● みなさまとのコミュニケーションを大切に ●

インベスターズガイドについて

インベスターズガイドは、株主ならびに投資家のみなさまに、当社の財務内容を正確にお伝えするとともに、みなさまとのコミュニケーションの手段として発行を続けてまいりました。毎年約100通のアンケートの回答をいただき、ご意見の一部を編集に反映させていただいております。今後ともみなさまからのご意見をいただきたいと存じますので、同封のアンケート用ハガキにてお寄せいただければ幸いです。

■ 2011年3月期について

日本経済はデフレ経済が続いており、建設業界は引き続き悪影響を受けております。このような中、3月11日に発生した東日本大震災の影響により、その先行きは更に不透明な状況となっております。

このような状況下、当社は、当事業年度中において、収益構造改革プランと名づけたリストラを断行いたしました。まず、11月に岩瀬工場を閉鎖し経済環境に合った生産体制を整え、更に40名規模の希望退職募集を行い、適正な人件費のスキームを構築いたしました。同時に工場での生産方法に抜本的な改善を加えてきました。

これらの施策により筋肉質な経営基盤を築く事が出来ましたが、建設業界の不振や原材料の高止まりという逆境を完全に跳ね返す事は出来ず、結果としては、売上高31億5千6百万円（前期比1.1%減）、営業利益3千1百万円（前期9千万円の営業損失）、経常利益4千6百万円（前期3千7百万円の経常損失）となりました。当期純損失につきましては、特別損失を4億7千4百万円計上（震災損失、リストラ費用など）した事等により、当期純損失4億5千5百万円（前期2億2千6百万円の当期純損失）と赤字決算に至りました。

事業部門別の業績は、次のとおりであります。

①スパンクリート事業

当事業は、マンションをはじめとする建設不況・景気減速の影響を受けましたが、北陸新幹線防音壁等の需要が好調だった事もあり、出荷数量は前期比6.4%増加いたしました。しかしながら、売上高は単価の低迷で、28億9千5百万円（前期比1.1%減）と僅かに減収、原材料コストの高止まりも加わり、年度後半に断行したリストラによる効果が届かず、最終的には、営業損失1億4百万円（前期2億3千7百万円の営業損失）となりました。

②不動産事業

当事業は、賃貸ビル3棟が高稼働を維持し安定収益を計上しており、売上高2億6千1百万円（前期比1.1%減）、営業利益1億4千2百万円（前期比5.0%減）となっております。

■ 2012年3月期の業績予想

2012年3月期は、景気の先行きに対する見通しが立ちづらい事に加え、東日本大震災による電力供給や、全般的需給に与える影響を予測する事が極めて困難な状況にあります。この為、2012年3月期業績予想は、もう暫く時間の猶予をいただき、これらの予想がある程度明確になって来た段階でご報告申し上げようと思っております。

■ 対処すべき課題

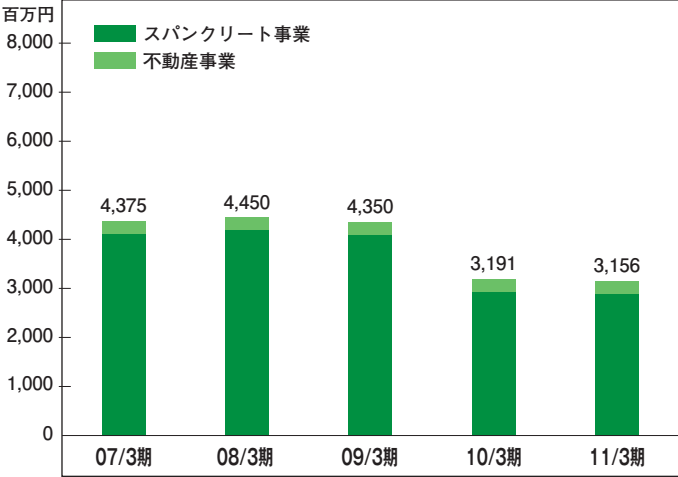
当社は、創業以来スパンクリート（穴あきPC板）と呼ぶコンクリート部材を建設業界に供給しております。需要が減少に向かっている環境下で、生き残りが試されている建設業界にとっては、建築施工の合理化を推進していく事が最重要課題であります。当社の主力製品であるスパンクリートは、工場による量産が可能であり、耐久性の面で優れ、断熱性能、遮音性能、耐火性能面でも優れた特性を有しており、その利用により工期の短縮、工事の省力化を図る事が出来、ひいては建設コストの引き下げに貢献する事が出来ます。当社は、このスパンクリートを安定的に供給出来る生産、販売体制を強化し、かつ効率化を推進する事により、建築の合理化を必要とする顧客のニーズに対応してまいりたいと考えております。

こうした背景と認識の下で、当社は次の経営方針を立てそれを具現化する事により経営基盤の強化を図っていきたくと考えております。

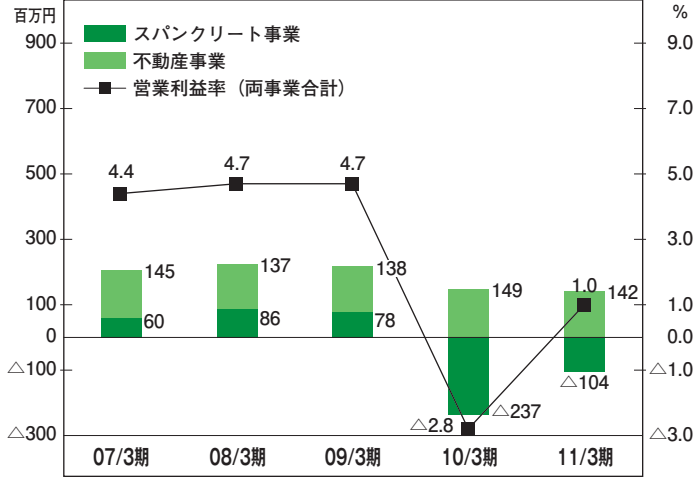
- ①主力製品であるスパンクリート事業の徹底した効率化を図り、他のコンクリート製品、工法とのコスト競争力を強化する。同時に顧客満足度経営を重視し、顧客ニーズへの即応体制を構築し、徹底した製品の品質改善に努める。
- ②スパンクリートの販路を再構築し、建築並びに土木の分野において、需要の増加している分野に営業のエネルギーシフトを行う。
- ③スパンクリートと密接に関連した、より付加価値の高い新製品の開発に努める。
- ④改善活動に取り組み、生産性向上とコスト削減に注力する。
- ⑤収益基盤の安定化を図るために、不動産事業の着実な推進を図る。

昨年刷新された齊藤建次社長以下の経営陣は2年目を迎えますが、今後とも社員一丸となり難局を乗り越えみなさまのご期待に応えたいと思っております。

売上高



営業利益



損益計算書要旨

	09/3期		10/3期		11/3期	
		(%)		(%)		(%)
売上高	4,350	100.0	3,191	100.0	3,156	100.0
売上原価	3,571	82.1	2,772	86.9	2,607	82.6
販売費および一般管理費	572	13.1	509	16.0	517	16.4
営業損益	206	4.8	△90	△2.9	31	1.0
営業外損益	63	1.4	53	1.7	14	0.4
経常損益	270	6.2	△37	△1.2	46	1.4
特別損益	△503	△11.6	△118	△3.7	△464	△14.7
税引前当期純損益	△233	△5.4	△156	△4.9	△418	△13.3
法人税、住民税及び事業税	12	0.3	10	0.3	7	0.2
法人税等調整額他	△20	△0.5	58	1.9	29	0.9
当期純損益	△225	△5.2	△226	△7.1	△455	△14.4

スパンクリート事業 2,895百万円
不動産事業 261百万円

スパンクリート事業 △104百万円
不動産事業 142百万円
共通費用 △6百万円

岩瀬工場閉鎖に伴う減損損失 107百万円
希望退職募集に伴う特別退職金 92百万円
固定資産除却損 58百万円
有価証券の減損処理及び売却損 100百万円
東日本大震災による災害損失 86百万円

キャッシュ・フロー計算書

	09/3期	10/3期	11/3期
営業活動によるキャッシュ・フロー	45	778	△364
投資活動によるキャッシュ・フロー	△90	95	204
財務活動によるキャッシュ・フロー	△304	△203	△172
現金及び現金同等物の増減額	△355	674	△332
現金及び現金同等物の期首残高	2,332	1,873	2,548
資金の範囲の変更による現金及び現金同等物の増減額	△102	—	—
現金及び現金同等物の期末残高	1,873	2,548	2,215

減価償却費・減損損失による資金の増加を税引前当期純損失および売上債権の増加の支出等による資金の減少が上回ったため減少

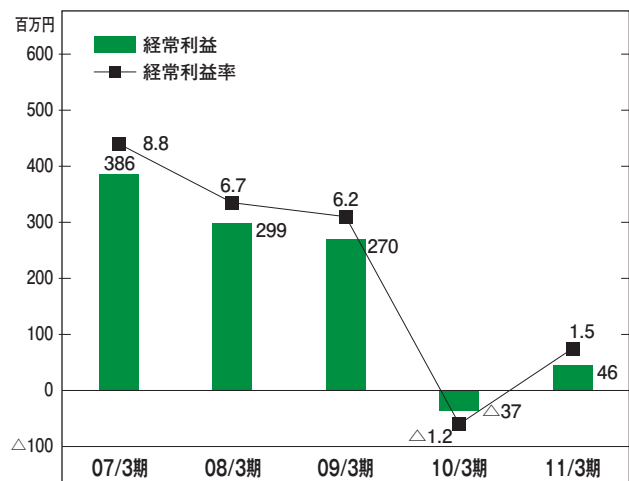
投資有価証券の売却による収入が有形固定資産の取得資金等の支出を上回ったため増額

短期借入金の返済、自己株式の取得資金の支出により減少

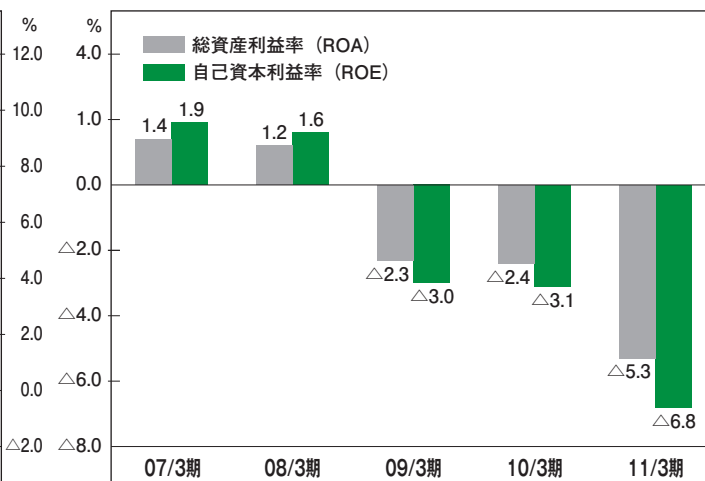
財務諸表コメント

- 〔10/3期〕景気減速による建設需要減、原材料価格が高止まりする中、予想を超える工場操業度の落ち込みにより工場の採算が大幅に悪化した事等から赤字計上を余儀なくされました。
- 〔11/3期〕岩瀬工場を閉鎖し、経済環境に合った生産体制を整え、筋肉質な経営基盤を築く事が出来ましたが、建設業界の不振や原材料の高止まりという逆境を完全に跳ね返す事が出来ず赤字決算となりました。

経常利益



総資産利益率・自己資本利益率



貸借対照表要旨〈資産の部〉

(単位：百万円)

	09/3期	10/3期	11/3期	(%)
資 産 の 部				
流 動 資 産	3,860	3,752	3,433	39.9
現金及び預金	1,587	2,262	1,930	
受取手形及び売掛金等	1,315	524	824	
有価証券	588	738	491	
たな卸資産	287	180	165	
その他	81	45	22	
固 定 資 産	5,868	5,481	5,181	60.1
有形固定資産	4,560	4,456	Point ① 4,249	49.3
無形固定資産	12	11	8	0.1
投資その他の資産	1,296	1,014	Point ② 923	10.7
投資有価証券	1,057	760	698	
保険積立金	146	153	152	
その他	92	100	71	
資 産 合 計	9,728	9,234	8,614	100.0

Point ① 生産設備の統合による減損、建物・機械等の償却等により減少

Point ② 時価の下落、売却等で減少

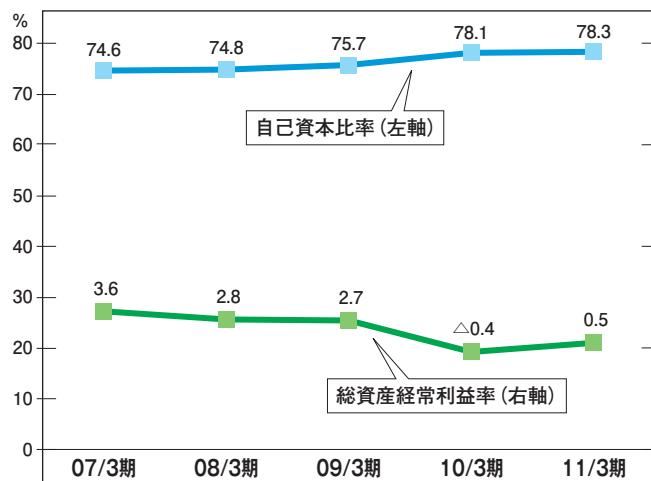
貸借対照表要旨〈負債・純資産の部〉

(単位：百万円)

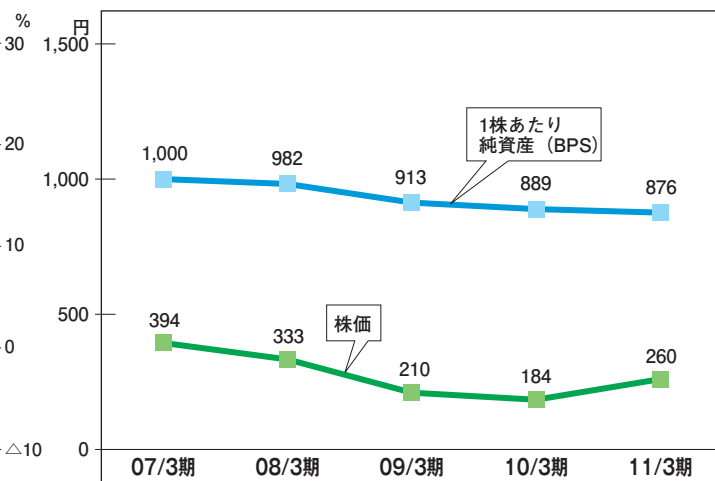
	09/3期	10/3期	11/3期	(%)
負 債 の 部				
流 動 負 債	1,547	1,150	986	11.4
短期借入金	800	700	600	
その他	747	450	386	
固 定 負 債	816	871	886	10.3
負 債 合 計	2,363	2,021	1,872	21.7
純 資 産 の 部				
株 主 資 本				
資本金	3,295	3,295	3,295	38.3
資本剰余金	3,710	3,696	3,696	42.9
利益剰余金	772	513	△185	△2.1
自己株式	△317	△300	Point ③ △370	△4.3
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金	△173	△71	△15	△0.2
土地再評価差額金	77	77	322	3.7
純 資 産 合 計	7,365	7,212	6,742	78.3
負 債 純 資 産 合 計	9,728	9,234	8,614	100.0

Point ③ 自己株式413千株を期中に取得し、期末残は1,611千株

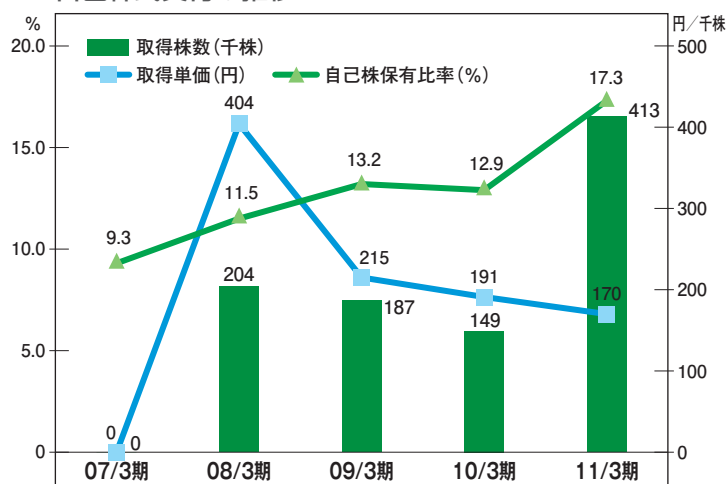
自己資本比率と総資産経常利益率



株価の推移 (終値)

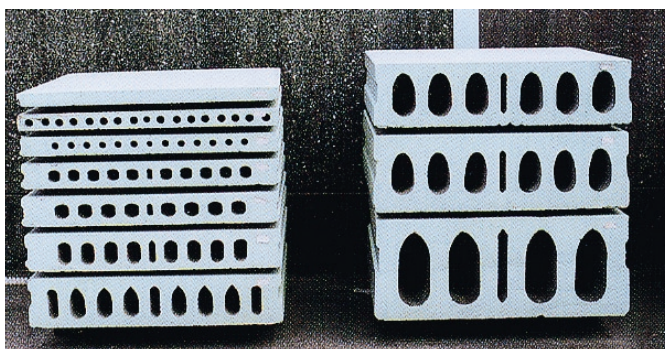


自己株式買付の推移



期末株式総数 9,306,400株
 うち自己株式 1,611,861株
 取得平均単価 230円
 (07/3期～11/3期 取得平均単価 232円)

スパンクリート



スパンクリート標準製品。スパンクリートは縦方向に数個の穴をもち、PC鋼線によってプレストレスを与えられたコンクリート板です。床材として、また壁材として建築から土木まで多目的に使用可能な材料です。厚さ7cmから35cmまで17種類。高耐力、ロングスパンが特長です。当社はスパンクリートの生産・販売を行っております。

スパンクリートの特長

高強度部材で大スパンに適します



防水性に優れています



防火性に優れています



遮音性に優れています



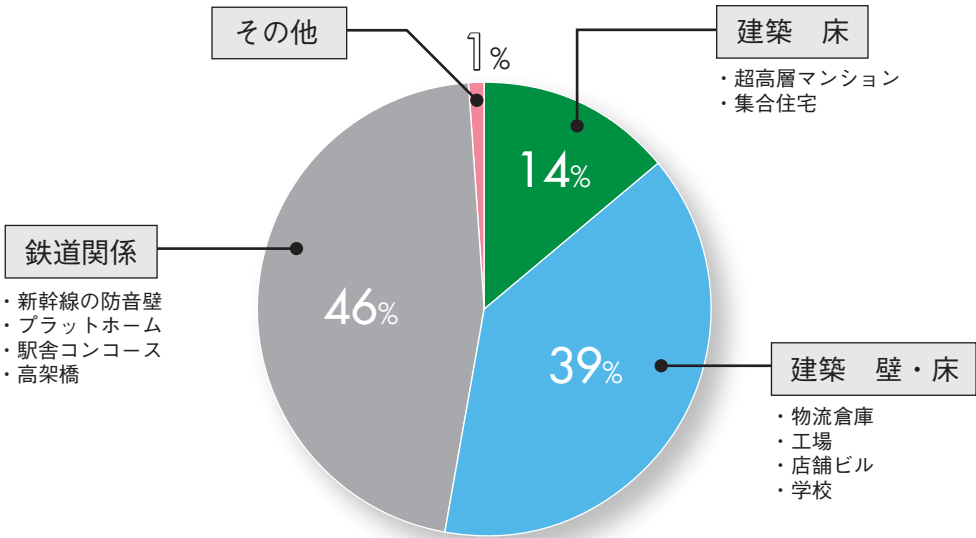
北陸新幹線 防音壁



マンション 床



当期施工の用途比率



文化観光施設 外壁



官庁 合成床・壁



東日本大震災の影響

3月11日に発生いたしました東日本大震災は当社にも大きな被害をもたらしました。
ストックヤードで出荷待ちの製品はその大半が地震により崩壊し破損いたしました。
また、建屋および設備も被害を受け、生産・出荷は約2週間にわたり全面停止となりました。その後余震の続く中、社員一丸となって懸命の復旧作業を行った結果3月28日には何とか生産再開に漕ぎつけることが出来ました。しかし原発事故の影響による計画停電実施により、昼間の操業が困難になり、夜間操業を余儀なくされました。
現在（6月現在）は、ほぼ平常の状態に戻っております。これほどの大地震に見舞われた中、社員に1人のけが人も出なかった事は何より幸いであります。

新製品・工法トピックス

□道路防音壁

第二東名高速道路の防音壁に採用されました。
当社は、これまで新幹線をはじめ多くの鉄道防音壁に採用されてきましたが、今回は道路の防音壁に採用されました。
今後、新工法として道路の防音壁にも注力していく方針です。



□ワイドパネル

川崎市に建設された超大型冷蔵倉庫です。
冷蔵倉庫では比較的珍しい免震構造になっています。
外壁はワイドパネル、室内間仕切は標準パネルが全面的に採用され、工期を大幅に短縮する事が出来ました。



ごあいさつ



代表取締役社長

齊藤 建次

はじめに、この度の東日本大震災で被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。
さて、2011年3月期は厳しい結果が予測されていた事とは言え最終的に4億5千万円の損失となり、大変残念な結果に終わりました。株主のみなさまには深くお詫び申し上げます。
営業面では本業のスパンクリート、不動産事業ともに順調な結果で営業利益・経常利益ともに、期中の業績修正を上回る数字を残せたのですが、特別損失を大きく計上した事がその原因です。東日本大震災の災害損失や、有価証券評価損失等です。
しかし一方ではリストラ費用などのように前向きな特別損失もあります。昨年11月に岩瀬工場を完全に閉鎖し、これに前後して希望退職も募集しました。今後は、これら一連の機構改革により損益分岐点は大きく下がる事が期待されますが、その効果は近い将来必ず表れてくるものと確信しております。
しかしながら残されている問題も多く、今後も一層の努力をしていく所存でございますので何卒ご理解下さいますようお願い申し上げます。

会社の概要

1. 会 社 名 株式会社スパンクリートコーポレーション
(英 文 名) SPANCRETE CORPORATION
2. 設 立 1963年(昭和38年) 3月23日
3. 資 本 金 32億9,589万円(2011年3月31日現在)
4. 役 員 代表取締役社長 齊 藤 建 次
常 務 取 締 役 飯 牟 礼 聡
常 務 取 締 役 村 山 典 子
* 取 締 役 坪 井 正 規
* 取 締 役 分 藤 潔
* 取 締 役 大 野 浩 司
常 勤 監 査 役 加 戸 貞 之
** 監 査 役 阿 部 裕 三
** 監 査 役 森 康 裕

*は社外取締役です
**は社外監査役です
(2011年6月24日現在)
5. 本 社 東京都文京区湯島 2-4-3
〒113-0034 TEL(03)5689-6311
仙台営業所 宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘 3-6-12
平和マンション旭ヶ丘208号室
〒981-0904 TEL(022)272-1901
宇都宮工場 栃木県宇都宮市平出工業団地8-5
〒321-0905 TEL(028)661-2211
6. 取 引 銀 行 みずほ銀行(丸の内中央支店)
三菱東京UFJ銀行(神田駅前支店)
りそな銀行(上野支店)
三菱UFJ信託銀行(本店)

主要取引先

- 設計事務所 三菱地所(株)・(株)日本設計・(株)日建設計・(株)日建ハウジングシステム・東電設計(株)・(株)松田平田設計・(株)梓設計・(株)創元設計・(株)横河建築設計事務所・(株)ジェイアール東日本建築設計事務所・独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構・(株)久米設計・(株)石本建築事務所 他
- 商 社 三菱商事(株)・三菱商事建材(株)・三井住商建材(株) 他
- 建 設 会 社 鹿島建設(株)・大成建設(株)・清水建設(株)・(株)竹中工務店・(株)大林組・前田建設工業(株)・戸田建設(株)・西松建設(株)・三井住友建設(株)・鉄建建設(株) 他

大株主

- 1 三菱商事(株)
- 2 日本スパンクリート機械(株)
- 3 鈴木金属工業(株)
- 4 村山 典子
- 5 村山 知子

会社の沿革

- 1963年 3月 スパンクリート製造株式会社(旧社名)設立
資本金1,000万円 代表取締役社長 村山好弘就任
4月 資本金4,000万円に増資
7月 資本金1億円に増資
- 1964年 2月 宇都宮第1工場屋外生産設備完備 試作開始 営業開始
7月 資本金2億円に増資
- 1970年 10月 宇都宮第2工場建設完了 生産開始
- 1971年 4月 日本スパンクリート協会を設立 会長に当社代表取締役社長村山好弘就任
- 1975年 10月 空胴プレストレストコンクリートパネル工業協会(穴あきPC板工業協会)設立
会長に当社代表取締役社長 村山好弘就任
- 1976年 5月 JISA6511(空胴プレストレストコンクリートパネル)制定される
- 1979年 12月 資本金2億3,000万円に増資
- 1982年 12月 宇都宮工場 JIS指定工場となる
- 1984年 3月 スパンクリート合成床工法 建設大臣認定を取得
7月 宇都宮第3工場生産設備完了 生産開始
- 1988年 11月 資本金2億9,000万円に増資
- 1989年 5月 スパンクリート合成床工法 特許を取得
10月 資本金4億2,434万円に増資
11月 資本金14億9,759万円に増資
11月 岩瀬工場建設完了 生産開始
- 1990年 2月 スパンクリート合成床工法 発明大賞受賞
- 1991年 2月 社名をスパンクリート製造株式会社から株式会社スパンクリートコーポレーションに変更
4月 スパンクリート合成床工法 科学技術庁長官賞受賞
9月 株式を公開(店頭) 資本金32億3,459万円に増資
- 1992年 4月 当社代表取締役社長 村山好弘 黄綬褒章受賞(スパンクリート合成床の発明考案など業務精励)
5月 株式を1対1.4に分割
- 1993年 5月 岩瀬工場 JIS指定工場となる
- 1996年 7月 本社を文京区本郷4丁目に移転
- 2003年 8月 Jスラブ(組立床工法)財団法人日本建築センターの構造評定を取得
- 2004年 3月 明星プレテック株式会社(4月プレテック株式会社に社名変更)の株式を100%取得
- 2005年 5月 宇都宮工場・岩瀬工場・設計部 ISO 9001認証取得
6月 原田稯代表取締役社長就任
11月 1単元の株式数を1,000株から100株に変更
- 2006年 3月 プレテック株式会社解散
10月 普通株式1株を2株に分割
- 2010年 6月 齊藤建次代表取締役社長就任
7月 本社を文京区湯島に移転
11月 岩瀬工場閉鎖
生産設備を宇都宮工場に統合



宇都宮工場